

第4号様式（第10条関係）

会 議 録 （要 旨）

会 議 名	第4回武蔵村山市市民協働推進会議
開 催 日 時	平成26年9月22日（月）午後6時45分 ～ 9時
開 催 場 所	中部地区会館401大集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：渡辺龍也、鴻田臣代、瀬口圭志、中村政義、高橋茂明、北口良夫、本間由美子、前田啓子、比留間毅浩、山田行雄 （事務局）協働推進課長、協働推進課主査、協働推進課主事
報 告 事 項	報告事項1 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議結果について 報告事項2 第二次審査辞退団体について
議 題	議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 議題2 その他
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	議題1 協働事業提案制度提案事業の一次審査について 提案団体によるプレゼンテーションを2団体実施した。 議題2 その他 1 次回会議の開催日程 第5回会議は9月25日（木）午後6時から、中部地区会館（市役所4階）401大集会室で開催する。 2 その他 特になし。
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。） （発信者） □印：座 長 ○印：委 員 ●印：事務局 △印：提案団体 ▲印：協働担当課	報告事項1 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議結果について ● 第3回武蔵村山市市民協働推進会議の会議録について、修正等の連絡がなかったため、承認とみなしホームページ等で公開する。 報告事項2 第二次審査辞退団体について ● 事業番号26-1及び26-5について、提案団体より辞退の申し出があったので報告する。 □ 事業番号26-1は、9月22日付の辞退か。 ● そのとおり。 □ 辞退について、規定を設けるべきである。来年度の募集要項を定める際に検討する必要がある。 議題1 武蔵村山市協働事業提案制度の提案事業の第二次審査について 事業番号26-2 団体名：むさし村山ストリートダンス協会 事業名：ムラッパーによる武蔵村山認知度アップ作戦 -提案団体によるプレゼンテーション ○ ダンスを踊れるキャラクターは貴重である。町おこし、町づくりの手法として好感が持てる。

- 本市には観光協会がなく、市との協働が不可欠との話があったが、市のどのような部署に、どのような協力を求めるのか。
- △ 産業観光課と協働したいと考えている。イベントでブースを出す際に、観光用のチラシやパンフレットを置きたいと考えているためである。
- 現在出演を予定しているイベントは。
- △ 多摩3市うまいものフェア、ゆるキャラグランプリ、ご当地キャラこども夢フェスタ、世界キャラクターさみっと、地域の商業施設で開催されるクリスマスイベント等である。
- 非公認キャラクターであることで、制約を受けることはあるのか。
- △ イベント等の参加を承認されないことや、商工会等の推薦を必要とする場合がある。しかし、非公認であることで、自由に活動できる面もある。
- むさし村山ストリートダンス協会を構成する7団体は、全てダンスの団体なのか。
- △ そのとおり。会員は合計500名以上である。
- 今後、補助金に頼らない運営に向けた展望を聞きたい。
- △ グッズの販売による資金確保を考えている。しかしグッズの作成は自費で賄ってきたため、資金の確保は今後の大きな課題である。
- 真如苑の助成金の利用実績があるが、用途は。
- △ デエダラまつりに参加する際の経費である。
- 着ぐるみの活動可能時間は。
- △ バッテリーの稼働時間は1時間程度である。しかし着ぐるみの中はととも暑いので、天候等の状況により、変わることもある。
- 着ぐるみの耐用年数は。
- △ 作成してから半年間、毎週イベントに使用しているが、特に消耗していないことから、使用頻度によるが4、5年程度ではないかと考えている。
- 本市の知名度を高めることが目的の事業だが、一年後の具体的な目標はあるのか。
- △ ゆるキャラグランプリで100位以内に入ることである。100位以内に入るとメディアで取り上げられ、知名度の向上が見込めるためである。最終的には、本市の知名度を高めることで、子供達に夢を持ってもらうこと、本市に住んで良かったと思ってもらうことが目的である。
- 本市のキャラクターを作成して各地に出向いていく事業はこれまでに無い試みである。頑張ってもらいたい。

事業番号26-3

団体名：いつひよファミリー～with 石田倫依

事業名：ひろげよう！子育て支援の輪プロジェクト

-提案団体によるプレゼンテーション

- 心の支援を行うという話があったが、企画書にはそのような言葉は載っていない。子育てに関する本市の現状や課題については理解できたが、本事業で何を実施したいのかがよく分からない。
- △ 子育て支援事業そのものを心の支援と表現した。親子コミュニティ広場の開催が事業の柱と考えている。内容は、残堀・伊奈平地区会館

で開催する親子での遊びや育児相談である。

- 企画書の実施の手法の欄で、項目が分かれすぎているので理解しにくい。
- 子ども家庭支援センターや児童館の既存の事業を利用しにくい市民に対し、親子コミュニティ広場の開催により子育て支援を行うというのが主旨か。
- △ そのとおり。
- 最終的には市内全域で開催するのが目標か。
- △ 現在、子育て支援に関する施設は市の東側に偏っているので、西側を中心に子育てしやすい環境を整備し、強化していきたい。
- 予算書では児童館事業と子育て支援事業の2つに内訳が分かれている。この2つに沿って事業の説明があると分かりやすい。
- 今年度も事業を実施してきて、協働担当課からも感想や意見を伺いたい。
- ▲ これまで児童館で開催されてきた既存の事業は、参加者が自主的に活動するものであった。協働事業では、専門の資格を持った保育士等により運営されており、参加者が満足できる講座が開催されていると感じている。
- 協働する意義を感じているということか。
- ▲ そのとおり。
- 今年度は月に2回の実施であるが、来年度は2年目であることから、実施回数の増加が望ましい。
- △ 参加者からの要望はあるが、人員の確保が難しい。また、最終的な目標は、各家庭が自主的な子育てをできるように促すことであり、本事業でモデルケースを示した後に、各家庭が主体となって事業を実施できるように引き継ぎたいと考えている。
- 各家庭が自主的に事業を実施していくよう促すことは素晴らしい。そのための仕組み作りが大切である。
- 地域交流、世代間交流が希薄とあるが、自治会に加入すると活発な地域交流ができる。
- △ 現在子育てをしている世代の家庭は、自治会への加入や定期的な地域交流を敬遠する傾向がある。
- 一つの講座にどれくらいの参加者がいるのか。
- △ 今年度実施した6回の講座の参加者は、それぞれ61名、52名、68名、48名、48名、35名である。
- 児童館と子ども家庭支援センターの関係は。
- ▲ 子ども家庭支援センターは、本市が指定管理委託により運営している施設で、児童館と定期的な意見交換等の場は設けているが、同じ部署の施設ではない。
- 協働における役割分担は適切に出来ているか。また、協働することにより、より良い子育て支援事業ができていると感じるか。
- ▲ 施設の利用については協働担当課が、事業の企画・運営については団体が、それぞれ適切に役割を果たしていると感じている。また、協働事業の実施により子育ての輪が広がっていると感じている。

議題2 その他

(次回会議の開催日程)

	<input type="checkbox"/> 第5回会議は9月25日(木)午後6時から市役所401大集会室で開催する。
--	---

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 ()	傍聴者： 3 人
-----------------	---	----------

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示(根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示(根拠法令等：)
------------------	---

庶務担当課	生活環境部 協働推進課 (内線： 242)
-------	------------------------

(日本工業規格A列4番)